

新年会

自由が丘住区住民会議



会長 石川靖英 挨拶

旧年中は住区住民会議の活動におきまして町会、自治会、小、中学校ならびにPTAの方々、文化会館、児童館の皆様方にたいへんご協力をいただきましてありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

今年も相変わりにませず、ご協力の程をお願い申し上げます。



奮って実行委員や専門委員として参加してください。

自由が丘住区住民会議では、夏の和田村キャンプや花火大会、秋の飯盒すいさん、冬のもちつき大会や書初めなどの青少年の育成事業、災害に備えた防災訓練、地域の人々が交流できるように料理教室やスポーツ交流の開催、ゴミや放置自転車の追放などの環境整備、住民会議をPRする広報紙の発行、地域の人々が活動の拠点として利用できるように住区センターの管理運営、などなどの活動を目黒区からの支援で行なっておりま

す。また、14年度からは、目黒区は中心市街地活性化法にもとづいたまちづくりや高齢者、身体障害者などにやさしい交通バリアフリーに取り組んでおりますが、これらの施策にも積極的に参加しております。

地域の人々が望む活動をしたり、行政のまちづくりの施策に孫子の代に悔いを残さないよう住民の声を反映させるためには、多くの方々の住区住民会議への参加が是非とも必要です。住みやすい街づくりにあなたの力をかして下さい。

詳しくは、住区センターまでお問い合わせください。

目黒区自由が丘1-24-12 (熊野神社隣り)
電話 3718-1195



感謝をこめて

緑ヶ丘小学校PTA会長 石井 登

皆様には、日頃より暖かく子どもたちを見守って頂きましてありがとうございます。

この度、緑小PTAは「全国優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞致しました。緑小独自の活動、学校完全五日制に伴い土曜日を活用し、親子の対話を目的に始めた「ドレミP.A.L.(バル)」（土曜日のド・レクリエーションのレ・緑小のミ・P.A.L.(バル)）は仲間、子どもたちに頭ではなく身体で何かを感じてもらおうと

生の演奏・舞踊等を観せるために設けた予算「児童文化費」、宮城県角田市との交流、みどりっこ110番、そして住区をはじめ地域の皆様との活発な交流等々が評価されたものです。

これは、このような活動が実行できる土壌を築き上げて下さった地域の皆様・学校・歴代のPTAのご努力の賜物と深く感謝しております。子どもたちの健やかな成長と安全は、学校と家庭という点と線だけではなく、面積としての地域の皆様のお力添えなくしては成り立たないと思っております。

これからも、より強い連携のもとに三位一体となって、子どもたちを見守っていかれたらと願っております。

今後とも宜しくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

春の火災予防運動

3月1日(土)～3月7日(金)

3月1日(土) 目くばり 火の用心
目黒区内での主な火災の原因は、タバコ・放火・ガスコンロの順です。寝タバコはしない・家のまわりに燃えやすいものは置かない・天ぷらを揚げるときはその場を離れないなど、日頃の注意が大切です。特に高齢者は犠牲になりやすく、ご家庭での安全をぜひ心がけてください。

「区民と消防団員のつどい」

日時：平成15年3月2日(日)

場所：めぐろパーシモンホール・大ホール
みなさまのご参加をお待ちしております。

連絡先：目黒消防署
電話：3710-0119

火災による死者が急増！

緊急



都内では今、火災により亡くなっている方が急増しその半数以上を高齢者が占めています。もう一度我が家の火の元を確認しましょう！

タバコによる火災が増えています！
寝タバコは絶対にやめましょう！
歩きながらの喫煙はやめましょう！
吸殻を隅かごに捨てるのはやめましょう！

暖房器具は正しく使いましょう！
寝るときや外出時には必ず火を消しましょう！
洗濯物の乾燥に使用するのにはやめましょう！
燃えやすい物の近くでは使用しないようにしましょう！

着衣着火による火災を防ごう！
調理中は袖口が炎に接しないよう注意しましょう！
袖口には防炎性のあるアームカバーを使用しましょう！



目黒消防署・目黒消防団・目黒防火協会・目黒防火管理研究会・目黒危険物安全協会・目黒防火女性の会
問い合わせ先 目黒消防署予防課(3710)0119 内線 520

まちの表情



今年の御題は「町」わが街自由が丘は、年々人気の街となり住人としては、誇らしく思いつつ暮らしているが、せっかくの人気の街を人に優しく清潔な美しい街であって欲しいものです。新春、楚々とした和服姿のグループを熊野神社境内に見つけカメラに収めてみました。

滴

畑の先生より

今日、子供たち自然の中でさまざまな自然体験を与えることの重要さが見直されています。

緑ヶ丘小学校では一年生から六年生がそれぞれの学年畑で、思い思いの野菜栽培に挑戦しています。普段なに気なく食べている野菜も、育ち方がいろいろでも神秘的で、毎日毎日が感動との出会いです。畝を作り、土を作る。そこにはいろいろな虫たちの出会いもあります。身の回りの自然に親しんで身近な生き物たちと心を通わせることで小さな草花やそこに集まる虫たちからもいろいろなメッセージをもらえます。自然観察は自然を自分の心の中に発見していく作業であり、心の喜びがあります。自然とともに生きる人間を育てるためには、感動体験を味わうことが大切で、ことに生き物とのふれあいは、命あるものへの感情を育てるには絶対に必要であると思います。私たちはいつまでも子ども達と自然を結びつける「仲介者」でありたい。

土屋代四男



